

北の海流



—— 山女魚の佳境を往く ——

田辺 溪心 監修

— 山女魚の佳境を往く —

北の溪流

田辺 溪心 監修

Printen in Japan

総 北 海



定価 1,200円

北の溪流——山女魚の佳境を往く——

田辺溪心／監修

Keisin Tanabe 1986

昭和61年6月5日 第2刷発行

発行者 — 田村 辰雄

発行所 — 株式会社 総 北 海

旭川市神楽岡14条5丁目 〒078

電話 旭川(0166)65-2101

振替 11444

デザイン — 株式会社 ビックス

印刷 — 株式会社 総 北 海

落丁本・乱丁本は、小社出版部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取替えます。





雪代ヤマベを求めて頓別川水系をゆく(向こうの山はピンネシリ岳)



宗谷地方では4月中旬ぐらいが釣りやすい雪代ヤマベ



天塩川水系。ピヤシリ川(名寄・日進)



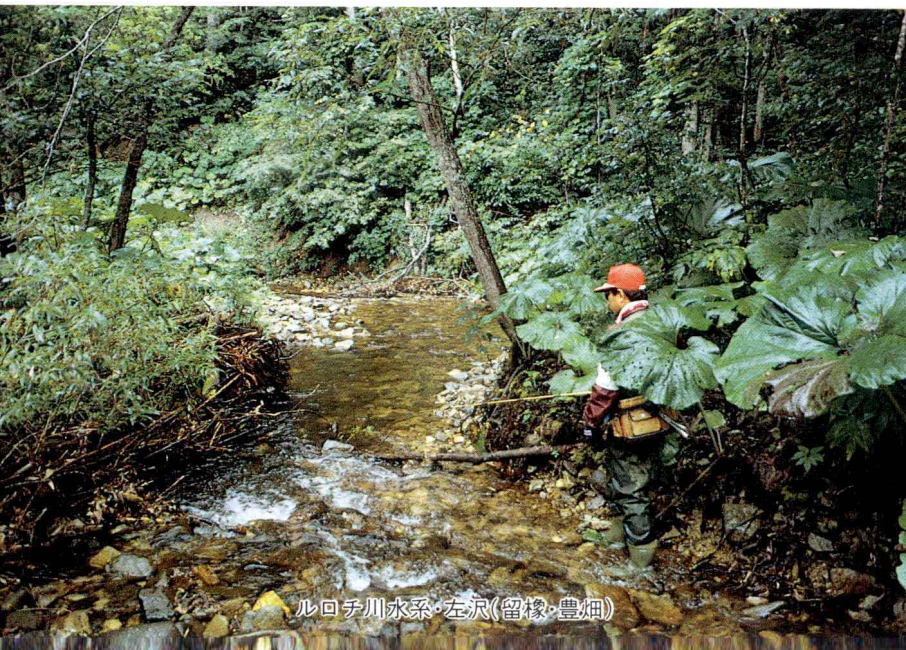
上川地方で6月の解禁早々に釣れる銀毛ヤマメ



雄武川・本流(雄武・下雄武)



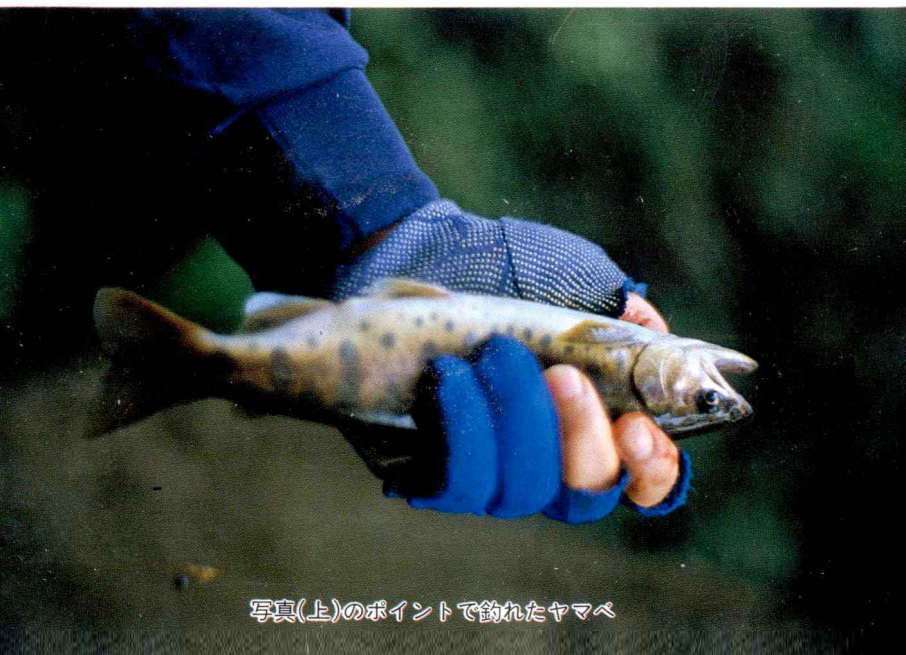
興部川水系・札滑川(上興部・札滑)



ル回子川水系・左沢(留椽・豊畑)



徳志別川水系・ニタツナイ川(歌登・志美宇丹)



写真(上)のポイントで釣れたヤマベ

もくじ

カラー・グラビア 3

北北東に進路をとれ 大八木 一雄 10

抱卵ヤマベのこと 三輪 與志高 14

ウエンシリの幅広ヤマベ 真鍋 嘉男 18

遠別川上流への挑戦 猪股 直紀 23

興部パンケの尺ヤマベ 北沢 登 28

想い出の釣りの旅 吉田 溪太郎 33

釣りキチだった夫の記録 井上 睦子 42

月刊『俺の釣り』復刻・再掲について 田村 禎己郎 54

宗谷管内北部の未知の溪流を尋ね歩く 55

村上之雄・山女魚を語る

山女魚の養殖 64

ヤマベの養殖―その隘路と活路― 67

「赤いやまべ」への期待 70

マス釣りを許可制にしては 72

山女魚の戯言―赤トンボ溪流行― 鍋田 孝雄 75





網走管内西部の溪流をさぐる	海老名 世次郎	97
春告魚が待っている	幾島 淳一	99
私の一番好きな川	串橋 佐吉	106
また行きます…頓別川へ	山本 秀勝	109
ワツカウエンベツへの挑戦	田中 元人	118
釣り会のキャンプに参加して		123
カラー・グラビア		123
小平越沢の山オヤジ	熊倉 勉	129
「チャメ」の記憶	篠崎 信行	134
溪流への誘い	二階堂 清風	140
田辺溪心・エッセー集	田村 禎三郎	145
アナ場論争		146
山菜同人		154
まがった魚		158
釣りこそ健康な人生		161
仕掛人		164
ヤマドジョウ		167
編集室		172

北北東に進路をとれ

● 大八木 一雄

北緯45度31分、日本最北端の位置を示す塔が宗谷岬の突端に建っている。海岸線はハマナス、エゾキスゲなど海浜性高山植物の宝庫であり、釣り場を目指して走る車の窓にも荒源たる大自然の魅力を細やかに伝えてくれる。

宗谷方面を訪れる観光客も年々増加しているようであるが、これと同じように釣り人もまた増えていると地元の人云う。なんといっても貸切バス数台をつらねてくる海釣りが最高であるが、数人グループの河川、溪流のマイカー組も結構いるとのことである。

しかし、宗谷といえは遠隔の地、魚が豊富であるし、奥地は開発途上の処も多く、従って楽しめる釣り場も多いということになろう。

宗谷岬を南下しながら好釣り場を拾っていくとまず峰岡の時前川がある。この下流の深場はイトウの大物がいるようで、初冬にここを狙うベテランも少なくない。かつてこの川は、深場もあり川沿いに道も無いところから、上流に行くのが大変で奥地はアナ場と目されていたが、別の所から上流に通ずる林道が付けられてからは、あまり期待されなくなったようだ。

次が苗太路の上苗太路川であるが、さらに南にある下苗太路川が「年間禁漁河川」に指定されてからは、オホーツクの荒波に押された砂で二本の川の河口が一つになるとのことで、上苗太路川も「禁漁」であると決め付けられているようだ。

いずれにしても、禁漁河川に指定されることは



好釣果の期待できる水系が多い

その川がサケやマスの遡上に適しているからであって、かつてこの川をこよなく愛していた釣りキチの父は、よく近くの農家に泊めてもらったそう。停年退職した今でも、その農家の人とは年賀状の交換をしているが、時折「もう行けなくなっただな」と想い出したように、当時の様子を話してくれる。

苗太路を南下すると知来別の知来別川が見えてくる。まず河口近くでは大川という感じが強い。溪流ファンなら上流に行く必要があるが、好釣り場までは途中で一泊するぐらいの道程となり、そのため下流からでは無理がありそうだ。

もうかれこれ十五年ほど前になるが、この地方に「未知の魅力」を感じた私は、計画的な開拓を続け、自分なりのとりあえず踏査を終えた。

初めて現地に乗り込んだときは、三泊の日程で小石市街に宿をとり、地元のベテランに案内を願い出たが、その返事は、「一緒に釣りには行けない

が、仲間とキノコ採りに行くので、途中までなら案内してやる……」とのことだった。

そのコースとは、小石市街から山越えて知来別川の上流に出る近道……誰にでも教えられないが、あんたは特別だ……とは、手土産の返礼だったかも知れない。

やはり近道があったか……と思っていたら、なんと道らしきものは全くない。ただ彼等の付けた目印だけが頼りのコースだった。

「ここを下れば川に出る」と教えられた崖を下って川原に着くと、そこには爪先の深い熊の足跡が無数にあった。だが、さすがは噂どおりの知来別川の上流だ……と思えるほど魚影も濃く、また型も良いが多かった。

しかし、上流へ行っても、また下流へ行っても熊の唸り声が近くで聞こえ、危険を感じて無理を避けたが、そんなことで釣り歩いたのは五百米ぐらいだった。約束の時間も迫ってきたので崖をよ

じ登り、小指ほどの太さのある熊笹を分けて、別れた場所に戻った。そこで10分ほど待ったが、彼等は現れない。「もし、約束の時間に来なければ一人で帰ってくれ……」との追言もあったので、再び笹藪に身を投じた。

彼等とは別行動なので、もし迷って単独行動になったときに……と出発前から自分に云い聞かせていたので、行きに山の形、沢の方向、目印となるような大木などを頭に刻みながら進んだことが、帰りの道筋をやや正確に引いてくれたのだった。

翌日からは、彼の話と私達の会が収録した情報を頼りに一人で宗谷の山中を歩き回ったが、小石市街の近くを流れる鬼志別川も釣果はよく、いきなりイトウがきて通糸がとんだこともあった。

さらに南にエコベ川があり、豊富地区から上流が好釣り場。林道もかなり延びているが、やはり歩くことを前提にする必要がある。

初釣行で、こんな調査結果と経験を得て、ミカ



イナシベツ川の滝ツボに投餌する筆者

ン箱3つになった塩付けの魚を持ち帰ってきた。それから何十回となく、この地方に足を運んでいるが、林道も延び、また橋もできたり、かつて TENT を背負って山越えした所へ車で行けるようにもなってきた。なんとなく寂しい気がしないわけでもないが、まだ／＼チャンスはある…と自負している。

私は「山を見る」ことが好きである。それは渓流魚のたわむれる清流の分水嶺だからである。この地方で一番好きな山：それはエタンパックである。その理由は云うに及ぶまい。

宗谷岬から41・5[※]で猿払に出るが、この近くに狩別川と猿払川がある。両河川とも魚層が厚くまた有名河川の部類だが、支流も多く釣り場の範囲も広いので、近年でも好釣果が聞かれている。

なにはともあれ、この地方には楽しめる所があるのは事実だ。釣りキチ諸氏よ「北北東に進路をとれ」と申し上げ駄文の結びと致したい。

抱卵ヤマベのこと

● 三 輪 與志高

溪流釣りを志して十三年、専門にヤマベを追うようになってから僅か六年というキャリアながら私もご多聞に洩れずヤマベに魅せられ、いつしか「抱卵ヤマベ」を釣り上げてみたい…などと途方もない夢を見るようになっていた。

だがそれは、私の知り合いの数十年のキャリアをもつベテランをして、「そんなヤマベがいるらしいな…」などと言わしめるほど希有な存在だったのである。

もちろん、私のまわりのどの釣りキチも、それを釣りあげたことがなく、彼らの誰もが人づてにそれを釣りあげたという話しすら聞いていなかったのだ。つまり、抱卵ヤマベは、私にとって恰も千里の径庭の彼方に浮かぶ小さな快魚にすら思え



下から3匹目が抱卵ヤマベ